

入社後の3年間



株式会社富士ピー・エス
九州支店工事チーム
なかおほのか
中尾 穂乃香

PCの世界へ

私は大学の頃、構造力学を専攻していました。PC業界への入社が決まっていたのは、インターンシップです。大学では、建築をメインに土木、船舶、航空と広く浅く学んでいました。そのため、インターンシップでも建築・土木・船舶の会社といろいろ行きました。そこで、私たちがよく使う橋の多くは、コンクリートで、コンクリートにプレストレスをいれることで、大きな荷重にも耐えられること、コンクリートとなることに興味を持ち、現場に携わりたいと思い、PC業界への入社を決めました。

施工管理への想い

大学卒業後、橋梁の上部工に関わる仕事に携わり3年が経ちます。最初の現場は、広島のアサヒパースの工事現場でした。初めて見る足場組立、架設

作業、鉄筋・型枠組立、打設作業、緊張作業すべてが私にとって新鮮でした。『百聞は一見にしかず』ということわざがありますが、本当にその通りだと思えます。現場での作業を見ると、抽象的にしか理解できていなかったことを理解し、さらに疑問もたくさん出てきます。新しい作業を見ると、この繰り返しで、徐々に分かったことが増えていき、日に日に施工管理の仕事へのやりがいが増して行っているように感じます。出来上がった橋を見ると、綺麗なカーブで高さや勾配も不自然なところがなく、測量で墨出しをした日々を、懐かしく思いながらとても達成感を感じました。また、最初の現場のバイパスはすでに開通しており、自分が携わった橋で通った時はとても嬉しく、達成感と共に、次も頑張ろうという気持ちになったのを鮮明に覚えています。

職場環境

私が、現在従事している現場の事務所は、ウェルネス事務所といって、快適性を高めた事務所となっています。事務所内には女性専用ルームがあり、ドレッサーやロッカーが配備されているだけではなく、トイレも併設されており、とても快適に過ごせます。他にもリフレッシュルームがあったり、机が同一方向に配置され、個人のスペースが確保されていたり、作業員の部屋も全面畳

敷きで広々としたスペースであったり、シャワールームに洗濯機・乾燥機が備わっていたりなど、建設業に染みついた3Kを、全く感じさせないような職場環境となっています。私は今、2現場目になります。2現場とも、現場のトイレは快適トイレという仮設トイレとは思えないトイレが設置されていました。このように、建設業も今の時代とニーズに対応してきていることは、何よりも嬉しいことだと思います。私自身、土木の世界へ入る前は、やはり汚いイメージはありましたが、こういった職場環境の整備のおかげで、環境に嫌な思いをせずに仕事に打ち込んでいるので非常に助かっています。今後もこういった取り組みが増えてほしいと思います。

最後に

私は女性技術者ですが、作業員の方々は男女関係なく頼ってくれます。どうしても、女性だからあまり頼れないのでは？と思うこともあると思いますが、自分が熱心に仕事に取り組んでいけば、周りの人はそれに応えてくれていく気がします。私は、今の施工管理という仕事が好きで、やりがいを感じているので、今後とも情熱を持って取り組んでいきたいと思っています。今は、そう遠くない未来に、現場代理人の立場で橋を完成させることが目標です。



▲ 事務所のリフレッシュルーム



▲ 現場での作業



▲ 初めての現場(開通後)

#007 仕事場拝見

橋との出会いから
現在

鹿島建設株式会社
関西支店
相馬 良太
そう ま りょう た

橋梁との出会い

私の人生は小学生の頃に家族旅行で四国に行った際に瀬戸大橋を渡ったことで大きく動きました。車の中から見た橋という構造物の大きさに圧倒されて、自分も作りたいと強く心に決めた出来事でした。当時のホームビデオにも興奮して橋の長さ等を親に解説している声が残っていました。夏休みの作文にもその出来事を書いていました。橋梁に魅了されたきっかけは鋼橋でしたが、大学時代にコンクリートの奥深さにも魅了され、PC構造の橋梁施工ができるゼネコンを志望し、現在の会社に入社しました。

はじめての橋梁設計と現場

入社後は設計部に配属され、3年目に念願の橋梁グループに配属されました。ただ、橋梁設計は1年経験することなく、いい現場があるから現場で色々経験していいと言っていたとき、現場へと異動が決まりました。初現場はPRC6径間連続ラーメン箱桁橋を片持架設

で構築する現場でした。上下線2橋あり、移動作業車16基同時施工を行う現場でした。上下部一体工事であり、私は10橋脚のうち4橋脚を深礎から上部工まで担当しました。担当箇所が広いため必ずどこかで打設、緊張、グラウト作業を行っており、施工途中の立会検査や測量もある中で、担当箇所を常に走り回っていたのを覚えています。エレベータを待つ時間も借しく、最大90m近くある橋脚を昇降階段で測量器具を持ちながら駆け上がっていたのを覚えています。大変な現場ではありましたが、憧れだった橋梁現場で、毎日変貌していく橋の姿を見ることができるとは最高に楽しい日々でした。上げ越し管理、緊張管理、グラウト管理、鉄筋・PC鋼材の発注など橋梁現場の基本をこの現場で叩き込まれた経験が現在も大変活かしています。

さまざまな経験

初めての橋梁現場が終わり、その後は管理部門と橋梁設計部門を合わせて5年ほど経験しました。管理部門では全国の橋梁現場の施工支援や、工事受注に向けた技術提案書の作成などに携わりました。提案書の作成は、会社としての思いを、限られたページ内に集約する作業であり、現場や設計に合わせるだけでは知らなかった工事受注までの流れを経験することができ、大変勉強になりました。また、施工支援として現場に4カ月

程行きましたが、そこでの出会いが次の現場配属につながるなど、常に人との出会いに恵まれていると感じています。

設計部門ではPRC15径間連続箱桁橋の詳細設計を担当しました。以前設計部門にいた際は、作図する段階からの業務や施工支援業務が多かったため、詳細設計の最初から最後まで携われたのは大変いい経験となりました。

次の配属は北陸新幹線のエクストラード橋を建設する現場でした。工程と施工条件が大変厳しい現場でしたが、さまざまなことにチャレンジさせていただき、無事に竣工した時は感動に震えました。この現場の最後に、技能者の方々から、お前がいなかったら絶対に工期内に終わらなかつた、相馬橋と思って自慢しろ。と言っていたいただきました。もちろん私だけで橋ができることはあり得なく、発注者を含め施工に携わった全員の集大成であつたわけですが、そのような言葉をかけてもらえたことは忘れられない思い出です。

最後に

現在はアーチ橋の現場に従事しています。片持架設に始まり、単純桁、エクストラード橋、アーチ橋と様々な橋梁の施工に携わることができています。これまでの経験と違うアーチ橋ならではの難しさに日々悪戦苦闘しながらも、橋を造る楽しさだけは変わりません。



▲ きっかけとなった瀬戸大橋に家族と



▲ エクストラード橋にて集合写真



▲ 初めての現場

新人卒業



ドービー建設工業株式会社
東京本社 経理部
たかすぎ わたる
高杉 航

はじめに

私は入社して北海道支店営業部に配属され、出身地である札幌で3年間を過ごし営業担当者としての経験を積みました。平成30年より、東京本社経理部に異動し、この春で経理マンとして6年目を迎えるようとしているところです。

当社では、ここ数年で採用人数が増えており、自身の同期入社者の数倍の人数の新入社員を毎年迎えるたびに、若手勢がにぎやかになって楽しい反面、同期がいなくなってしまうと自分を憂いつつ同期が多い若手勢を羨ましがりながら、日々業務に勤しんでおります。

経理業務に関する自己評価ですが、自身で進捗を見て調整をしながらこなせるようになり、「新人卒からは抜け出せたかな」と感じています。

プライベートでは東京本社に転動してきてからボルダリングを始めて、最近トップロープクライミングに挑戦しております。

担当業務について

私の経理部での担当業務は、大きく分けて三つあります。一つ目は、工事現場の原価管理業務です。業務内容は、工事現場で発生した費用の処理、現場の小口現金の管理、不動産の管理、労災手続きのほか現場所長からの依頼対応等を行っています。経理部に配属された当初は、顔を合わせたことのない工事部の方々と恐る恐る連絡を取りながら仕事をしていくことを覚えていきます。

二つ目は、固定資産業務です。これは四半期の決算ごとに各拠点で取得した資産と売却した資産の情報を整理し減価償却費を会社に報告する業務です。1月末には前年中に取得または売却した資産を整理して各市町村に償却資産の申告書を提出します。三つ目は、四半期毎の決算業務です。

決算業務は、6月、9月、12月、3月の時期に決算報告書を作成するもので、短期間で正確に実施する必要があります。概ね四半期の月末から決算資料提出締切となる次の10日くらいまでの2週間は、通常の業務に加え決算業務を行うことから繁忙を極めていきます。この2週間の内、まずは決算月末の5日間で全国の事業所と工事作業所から提出された収支支払資料を急いで確認して、担当現場の決算月末までに発生

している費用を余さず計上しなければなりません。この時期は各拠点の経理部が会計システムを二斉に使い始めるので、システムの処理速度が遅くなり始めます。ここからは売上計算作業に入りますが、後の資料作成の時間を確保するために3日間以内の完了が目標です。決算月末までの原価計上に漏れがあると売上計算はやり直します。最後に勘定明細・連結決算資料等の作成作業をこなして決算業務が完了します。今年度の第3四半期の決算は11月に税務調査を受け、年末に会計士監査が重なったため、繁忙期の前哨戦・本戦・延長戦を迎え、経理部のみんなで奮戦しました。

最近の業務について

ここ最近の業務では、業務効率化・生産性向上の取組と法改正への対応として、基幹会計システムの入替業務とインボイス対応に追われています。基幹会計システムの入替業務は、2025年度の運用開始を目標に1昨年前からソフト会社と打合せを進めています。基幹システムの刷新であるため、現在の運用状況のヒアリングを重視し各部署の要望を盛り込み、より良いシステムになるよう、打合せや研修に参加していきますながら、業務時間の大部分を割いて取り組んでいるところです。



▲ 趣味のクライミングの様子



▲ 経理部若手(中央が筆者)



▲ 仕事の様子